

アトリエ 琉游舎 だより 92号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2020年11月18日発行

秋は夕暮れ 夕日の差して山の端いと近う
 なりたるに 鳥の寝所へ行くとして 三つ四つ
 二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり

- 「秋は夕暮れが良い。夕日が差して山の端にほとんど落ちそうなときに、カラスがねぐらへ帰ろうとして、三羽四羽、二羽三羽と飛び急ぐ様子さえ、しみじみと心打たれる。」清少納言は「枕草子」冒頭で「春はあけぼの」「夏は夜」「秋は夕暮れ」「冬はつとめて（早朝）」と、春夏秋冬それぞれの季節の趣深い情景や風物詩について述べています。
- 千年も前に彼女が見た光景はここコリーナでも見ることが出来ます。夏をシベリアで過ごしたか雁の群れが10月末に池に戻って来ました。彼女は「まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて風の音虫の音など、はた言ふべきにあらず。」と続けます。カラスも早々にねぐらに帰り、日が沈むと秋の夜長、風や虫の音を楽しむ時間です。
- この枕草子の冒頭の自然の移ろいから受ける情感は、風景や生活が変わっても不変の、日本の心と思いたいのです。が、♪カラスといっしょに帰りましょう♪カラスは山に可愛い七つの子があるからよ と同じような情感を歌う童謡はいつまで歌い継がれるのでしょうか。
- カラスは雑食なので生ゴミや農作物を啄みます。そして今ではゴミをあさる厄介者の害鳥となっていました。枕草子にある情感はもう過去のものなのです。熊はかつては山の神様でした。今、熊は人の住む場所へと侵入し被害をもたらします。神様が猛獣となりました。
- その猛獣の熊を射殺したところ、多くの抗議が来たそうです。可哀想だ、山に返せばいいのにといいことです。襲われて死者が出たことや農作物への被害に想像力が及ばないのでしょう。
- 生物は子孫を残すことが唯一生きる目的です。人は人間らしく生きたいという厄介な目的を持ってしまいました。目的が違うものたちの共棲は難しいものです。ところが人間同士の共棲はもっと難しいようです。米国で「人倫か経済か」の優先順位を問う選挙がありました。この戦いは私には「熊を山に返すか射殺するか」の対立と同じに見えてしまいます。熊が山から下りてこない方法を議論できないのか、第3の両立の道を探らない人間は不思議です。

読書会 13時半から

11月24日(火) お釈迦様の真理の言葉「ダンマパダ」
 12月8日(火) 中途でも参加出来る易しい内容です

写経会

12月6日(日)
 13時半から

詩話会

12月12日(土)
 13時半から

居酒屋の会

11月25日(水)
 16時半から

映画会

毎週木曜日
 13時半から

11/19 木	13時半	苦い米 (104分)	イタリア映画。強盗犯の情婦フランチェスカは北イタリアの田植えのシーズン、盗みを働いたウォルターと出稼ぎ女性専用列車に紛れ込み、シルバーナに誘われるままに農場で働くことに。
11/26 木	13時半	上海から来た女 (87分)	オーソン・ウェルズ監督、主演。船乗りのマイクはある夜セントラルパークで出会った美女エルザに一目惚れするが、彼女は敏腕弁護士バニスターの妻だった。
12/3 木	13時半	紳士は金髪がお好き (91分)	マリリン・モンロー主演。豪華客船でパリに向かったNYの人気ダンサーローレライとドロシー道中で二人が巻き起こす事件の数々。モンローの魅力が詰まったミュージカルコメディ
12/10 木	13時半	アタラント号 (87分)	フランス映画。アタラント号の若い船長ジャンが田舎娘のジュリエットと結婚して、船と一緒に働いていた。彼女は狭い船内で気晴らしを望んだがジャンは許さない。
12/17 木	13時半	死の接吻 (99分)	ヘンリー・ハサウェイ監督。前科者のニックは三人の男と強盗を犯し自分だけ捕まってしまう。彼に同情した検事補は減刑のため共犯者を白状させようとする。
12/24 木	13時半	ストロンポリ (90分)	ロッセリーニ監督、イングリッド・バーグマン主演。難民のカリンはアントニオと結婚し彼の故郷のストロンポリ島に渡るが、過酷な生活に不満が爆発する。

今年はコロナ禍で様々なイベントや祭が中止になっていることと思います。これを頃合いと、手間暇と予算がかさみ参加者も減少している地域の行事が廃止になったという話も小耳に挟みます。私が50年以上前に部落対抗年齢別リレーで毎年参加していた町民体育祭も、コロナ禍を潮時として廃止となりました。朝晩の冷え込みが今よりも厳しかった文化の日、町の中心の小学校の校庭は部落の団結力と競争心で老若男女の熱気に溢れていました。「昔はこうだった」というと老境の始まりだそうですが、ついでに回顧話をもう一つ。

小学5、6年生の徒歩遠足は羽黒山に登ることでした。標高458m栃木百名山、登山口からの高低差約270m、関東平野の最深部に立つ単独峰です。車を置いて神社の鳥居から40分、ほぼ直登で最後は手足を使って登る急坂です。この山に押上小学校の5、6年生は学校から徒歩で頂上を往復します。グーグル地図の道のりは11.6キロですが、恐らく昔は田圃の畦道を歩き鬼怒川は歩行専用の小橋を渡ったと思うので、8キロくらいでしょうか、それでも往復16キロ。登山部分で3時間、平地の徒歩で4時間くらいはかかったと思われま。この行事は言うまでもなくとうの昔に廃止になっています。今この様な遠足を強行すれば、当日風邪をひき欠席する児童が続出するか、その前に親から「教育に名を借りたパワハラだ！」と教育委員会に訴えられるか、イヤその前に職員会議で「交通事故、山道滑落、田圃転落、疲労転倒」などと考えられる限りの危険が列挙されて「そんな危険を冒してまで徒歩遠足を強行することは教育的でない」と校長が英断を下すかもしれません。何かをやめることは、それにより何か得るものがなければ、ただ失うだけのものです。押上小学校の後輩たちは徒歩遠足の機会を失うことで何を失ったのでしょうか。私は、この遠足だけで根性や忍耐や体力や危機対応能力を身につけたとは言いませんが、少なくとも現在の心身を補強する一つの機会であったことは間違いありません。私はそのような機会を与えてくれた押上小学校の伝統と先生方の尽力に感謝いたします。達成や挫折や種々の経験の蓄積がその伝統と共に、今私の足裏に残っているからこうして歩むことが出来るのです。

お釈迦様は道を歩む人でした。道を切り開く開拓者ではなく、今ある道を丹念に「犀の角のようにただ独り歩む」^{注1}人でした。原始経典「スタニパータ（ブツダのことば）蛇の章3.犀の角」では道を一人歩むお釈迦様が道で出会い考え覚知したことを私たちに示し、お前たちも同じように「犀の角のようにただ独り歩め」と教えています。「お前たちよ、私が新たに切り開いたこの道をあとから付いてまいれ」とは決して言われてはいません。先人が踏みしめた道を丹念に踏みしめ直し、そこで覚知したことを語っただけです。それは革新的でも奇をてらったものでもなく、「確かにそうですね」と素直に受け入れられるような、語りかけられる人の境遇や疑問に合わせた言葉です。例えば「義ならざるものを見て邪曲にとらわれている悪い朋友をさげよ。貪り耽り怠っている人に、自ら親しむな。犀の角のように独り歩め。」^{注2}私たちはこの言葉を聞いて全くその通りであり、そうありたいと思うでしょう。当たり前すぎて言うまでもないことかも知れません。しかし言われた人ははっと気づいたはずです。「私は今までなんと貪り耽り怠っている人と親しんでばかりいたことか。だから私も貪る人となって苦しみにつきまとわれていたのだ」と。私たちが暗闇の道の中で迷っているときに、お釈迦様は「あなたが歩んでいる道はこんな道ですよ」と灯火で照らし、それを素直に受け入れた人は、あなたの道を犀の角のようにただ独り歩んで行けばよいのです。今まであった道が、今まであったところに、今までと違う道としてあなたに立ち現れました。道をありのままに観ることができたのです。

お釈迦様の教えは8万4千あるといわれています。各々の相手に合った教説を説いたためその時その場所その人に最も適した言葉となった教えが8万4千。語った人の数だけ教えがあるのです。ですから哲学教説として論理的に整理されるものでもなく、教えを比較対照すると一見矛盾と思われる言葉にも出会います。先人たちの踏みしめた道（伝統）を改めて踏みしめ（吸収）踏み直し（再編）踏み固めた道（教え）を道に迷う人たちに語りかけた言葉の集成がお釈迦様の教えです。人々が受け継いできた道徳・知恵・社会・生活をお釈迦様はありのままに受け入れ、自分の足裏に先人の教えの遺産として蓄積して歩み続けました。そして四つの根本原理の上にその遺産を再編して私たちの前に示したものが仏教の教えです。その四つとは「諸行無常（すべての物事は移り変わり変わらぬものなどない）」「諸法無我（すべての物事は関係の中で存在し独立したものはない）」「涅槃寂靜（悟りを得ることで安らかな境地に達することができる）」「一切皆苦（この世のすべては苦しみである）」です。どれも聞き覚えのある言葉かも知れません。お釈迦様の教えはすべてこの四つの根本原理に帰結します。そしてここに帰結する教えはすべてお釈迦様の教えと言っているのです。この教えは「每自作是念 以何令衆生 得入無上道 速成就仏身」^{注3}この20文字の願いの実現のためにあります。お釈迦様は私たち衆生をこの上ない悟りへの道（無上道）に入らしめ、自分と同じ境地（涅槃寂靜）へ至ってもらいたいと常に願っているのです。仏弟子である私は、お釈迦様が再構築して今に至ったこの伝統を足裏にしっかり蓄積して、同じ境地、つまり安らぎのところへと歩んで行かなければなりません。

コリーナに住むようになって、車ですべて移動してしまうと1日千歩程度しか歩けないことに気づきました。歩かないと足から年を取っていきます。だから車社会の栃木県の平均寿命は男が全国42位、女が46位なのでしょう。魅力度調査の最下位よりはましですが、どちらもせつかくの大地と自然と歴史 琉游舎：戸井 出琉・恭子 遺産の恵みを生かしていない結果です。それと羽黒山徒歩遠足をやめた お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152 ことも遠因と考えることは責任転嫁の八つ当たりにも聞こえるでしょうか。 矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850